

世界で活躍する日本企業を全力でサポート 国境を超えたサービスで社会に貢献する



樋口一磨国際法律事務所

東京都千代田区神田小川町2-3-7 兼七ビル6F
TEL.03-5259-7077 FAX.03-5259-7078
<http://www.higuchi-law.jp>

対談

弁護士(日本・ニューヨーク州)

インタビュアー

樋口一磨 × 藤波辰爾

[ドラディション・プロレスリング]

藤波 早速ですが、事務所設立の経緯から伺います。

樋口 昨年三月の震災後、自分に何ができるのかという思いや迷いがありました。弁護士として九年目で多くの方々とご縁があり、自分なりの形で社会のお役に立てる仕事をしようという決意で、昨年六月に事務所を立ち上げた次第です。

藤波 先生は三十五歳という年齢よりお若く見えますし、固いイメージがなく良い意味で弁護士さんらしくないので、何でも気軽に相談できそうですよ(笑)。

樋口 敷居の低い弁護士を目指しています。私はオンもオフもこんな感じなので(笑)。

藤波 さて、事務所名には「国際」と掲げられていますか。

樋口 今の時代、ビジネスに国境はありません。自分自身の海外での活動経験を生かし「国内外関係なく困っている方にサービスをご提供し、お役に立ちたい」という思いから名付けました。そういうグローバルなサービスは従来、大手や外資系の弁護士が手掛けており、敷居も料金も高いため、中小企業の方々は依頼しにくいと思うのです。日本を支援、世界に誇れる技術を持つ中小企業の方々の国内外での活躍をフレキシブルにサポートし、社会貢献できると考えています。

藤波 仕事をするに当たり、心掛けておられることはありますか。

樋口 お話をよく聞くことです。目的はご相談者の心を早く楽にすることなので、最終的にどうしたいのかということ冷静に見極め、一番早く関係者の皆様が幸せになるための方法を考えています。裁判だけが解決方法ではなく、様々な選択肢を考えます。実際は地道な作業が多いですが、それが大切だと思います。例えば藤波さんの場合、皆が見ているのはリングの上で闘っている姿ですが、そこに至るプロセスの方がより大切だと思っております。常に身体と心を鍛えケガをしないようにと。そのように事前に予防することも私の仕事です。

藤波 頼もしいですね。若い経営者の方も増えていきますし、そういう明瞭・簡潔なサポートはますます必要とされると思います。では、今後の展望についてお聞かせ願えますか。

樋口 弁護士の仕事は全く同じ案件が二つとありませんから、そういう点では一生勉強しなければなりませんし、国際規模の弁護士団体の会議などにも積極的に参加して世界中にネットワークを広げ、どこで問題が起きても対応できるようにしたいと思っています。そして事務所の規模についてはあくまで自然に、信頼関係の糸が増えて将来的に自然に大きくなればいいですね。

藤波 海外に活躍の場を広げようとする企業にとって、欠かさない存在です。一層のご尽力を。